

第1回明石港東外港地区再開発計画検討委員会(第1回)における主なご意見とその対応

	意見	対応
1	明石の特徴は、漁業にあると思う。和歌山県の白浜には「とれとれ市場」があり賑わっている。明石にも、似たような施設ができないか。	開発事例を収集・整理した(資料1-1)。
2	明石港においては、「魚」を除いて語ることはできないので、「魚」や「海」は重要視したい。 ウォーターフロントの再開発で「魚」などを扱った我が国の事例を集めてほしい。	今回委員会での検討事項。 開発事例を収集・整理した(資料1-1)。
3	明石市にとって明石港は非常に重要な位置づけにあり、人の流れや魚といったことを重視すべき。現状の土地利用は決して適切な状況にあるとは言えない。	今回委員会での検討事項。
4	検討を進める上で重視すべきことに、「人の流れ」、「魚」、「明石海峡」、「明石海峡大橋」がある。また、交通の要所であり続けてきたこと、明石市沿岸部には数少ない自然海岸・半自然海岸が残されていることにも注視すべき。	今回委員会での検討事項。
5	明石らしさをはっきりさせることで、時間とお金をかけてここへ来る意味が明確になる。明石らしさをもっと具体的に定義しておくことが重要。 誰と来ているかは、観光プランを考える上で重要なポイントで、誰と一緒に来るかによって求めるものが異なる。誰とどんな時間を共有するために明石に来ているかを整理してほしい。 観光のターゲットをどこに設定しているか教えてほしい。また、住民にとってどのような観光、レクリエーションの場として位置付けるかについても聞きたい。 この地域をどんな都市として位置づけようとしているのかというポジショニングが明確になると、観光空間の演出、イメージ付け、用意するものについて、具体的なイメージが湧く。	明石らしさを具体的に定義した(資料2)。 誰と来ているかを整理した(資料1-2)。 観光のターゲットを整理した(資料1-3)。 「明石市まち・ひと・しごと創生総合戦略」では、明石の地域資源を十分にいかし、賑わいの創出と交流の促進を図ることなどが施策として挙げられている。
6	明石市は海を臨むまちであることが大きな特徴である。また、市街地化が進んだ非常に便利でコンパクトなまちであることも特徴の一つである。明石らしさを一つ挙げるならば、まずは海、そして豊かな自然や歴史をいかした住みよいまちになるかと思	今回委員会での検討事項。

	う。	
7	「らしさ」を出す必要があると考えており、やはり、それは海と魚だと思う。あわせて、いろんな歴史・文化施設があるので、それらをいかに結びつけるかということが大事である。	今回委員会での検討事項。
8	計画地を利用して、人の往来が発生するようにしたい。来訪者が誰と来て、どういう動きをしているかが気になる。また、3時間以下の滞在が過半数なので、滞在時間も検討する必要がある。	今回委員会での検討事項。
9	この地域は南海トラフや山崎断層等による地震の影響があるため、ハザードマップを用意してほしい。	ハザードマップを収集・整理した(資料1-4)。
10	定期旅客船の位置付けについて、委員会に関係者がいないため、意見収集をしておいてほしい。	クルージングの導入等について、(株)淡路ジェノバラインに対してヒアリングを実施した。
11	明石港では、クルージングも期待できるのではないか。明石海峡大橋をはじめ神戸から明石間の夜景の美しさは優れた観光資源であり、将来性がある。また、淡路島から小豆島方面への瀬戸内海クルージングも考えられる。	<p>【ヒアリング結果】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・明石港東外港地区再開発の計画地において、クルーズ事業を行いたい。 ・クルーズ事業は、明石を瀬戸内海の東の玄関口ととらえ、ジェノバラインとしてではなく、(一社)瀬戸内海島めぐり協会※として行う。 ・クルーズ事業は、平成26年度より3年間実施してきた。明石海峡大橋の下を通過するロケーション等、海路の良さが見直されつつある。これまでは試験期間であり、平成29年度から本格展開したいと考えている。
12	かつては、水産物分場に淡路から明石までの魚が集まり、魚の棚に賑わいがあった。現在、明石市にある5つの漁業組合は、獲れた魚を個々にさばいており、魚が分散している。そこで、市場を中心とした「ミニ築地」のような施設ができないか。	今回委員会での検討事項。

※瀬戸内海の価値の内外へのアピール、観光客の誘致、地域経済と文化の発展等を目的に、平成27年10月15日に設立された法人。会長は中西進氏（国文学者）、副会長は吉村静穂氏（(株)ジェノバ社長）

13	計画地では、居住地としての良さよりも、明石海峡や歴史性というところを強調してはどうか。	今回委員会での検討事項。
14	明石市は、明石海峡や鯛・タコなどの定着した明石ブランドがあり、B級グルメの玉子焼なども認知され、恵まれた環境にある。また、標準時の基準となる東経 135 度線上に位置することから、いわゆる日本の中心という恵まれた要素もあるが、なかなか生かせていない。	今回委員会での検討事項。
15	計画地の築造は昭和 40 年代の初めで、半世紀近く経過しているが、岸壁や物揚場は今後どれくらいもつのか。また、南海トラフ地震対策として、地盤の強化なども考慮してほしい。	<p>当該地区には－5.5m 岸壁（昭和 38 年・58 年整備）及び－3.5m 物揚場（昭和 39 年整備）がある。平成 24 年度に実施した定期点検の結果、各施設とも主要部材（鋼矢板）については、直ちに施設の性能に関わるような変状はなかった。なお、車止めの欠損や係船柱の破損等の付帯設備等については、それぞれ修繕が必要な箇所が認められた。</p> <p>点検結果及び施設規模等の重要度を踏まえて、－5.5m 岸壁については、「ひょうごインフラ・メンテナンス 10 箇年計画」において、【要対策】の施設に位置づけ、必要な老朽化対策を平成 35 年度までに実施することとしており、－3.5m 物揚場についても、予算等を勘案し、必要な修繕等を実施し、施設の長寿命化を図っていくこととしている。</p>
16	アイデア募集という形で県民と共に計画検討を進めることは非常に良い。じっくり時間をかけ、幅広く意見を集めてほしい。	県民アイデア募集を実施した(資料 3-2)。